川上　高司　ブログ　アーカイヴ

2015年

4月10日

アラビア半島をめぐる地政学ーイランの復活！？

　アラビア半島南端のイエメンでは、昨年末に北部のシーア派であるホーシ派が勢いを増し、南部のスンニ派と対立が先鋭化していた。ホーシ派はイランの支援を受けていると言われており、国境を接するサウジアラビアにとっては脅威に映ったようだ

　今年 3 月末にはとうとうサウジアラビアはホーシ派を標的として空爆を開始し、イエメンではシーア派系ホーシ派とスンニ派の対立が激化し内戦状態となっている。

　サウジアラビアはこの空爆に参加協力するように同じスンニ派であるパキスタンに要請した。サウジアラビアは長年パキスタンに多大な支援をしてきており、昨年も 15 億ドルの支援を実施している。パキスタンもこれまではサウジアラビアの要請に逆らったことはなく、素直に要請があれば応じてきた。

　だが、今回は様子が違う。パキスタンでは軍の決定権は首相にある。現在はシャリフ首相が決定権を持っている。シャリフは国外亡命時代はサウジアラビアに滞在しておりその結びつきは強い。だが、今回の要請に対してシャリフ首相はパキスタン議会に派兵するかどうかを諮った。それを受けて議会は派兵に反対を表明、パキスタンのサウジ離れが明らかとなった。

　パキスタンがサウジアラビアの空爆に参戦すれば当然ながらイランを敵にまわすことになる。一方で 4 月 8 日には、イランのザリフ外相がパキスタンを訪問しパイプラインの話を詰めたばかりである。イランからパキスタンにパイプラインが伸びれば、パキスタンは安定した資源の獲得が期待できる。パキスタンとしては遠く隔たった地での宗派対立に巻き込まれたくないのは当然だろう。パキスタンはトルコのようにサウジアラビアと距離を取り始めたようだ。

　スンニ派国家としてシリア内戦ではサウジアラビアとともにスンニ派武装グループを支援してきたそのトルコだが、やはり最近はイランよりに外交を転換しつつある。

　4 月 7 日のイラン訪問前、エルドガン首相はサウジの空爆に参加することを示唆したりイランへの経済制裁に加わるような発言をするなどしてイラン側の不信感を買っていた。

　だがいざテヘランで会合すれば「イスラムはひとつ、シリアとイエメンの和平のために一緒に調停しよう」を呼びかけ、経済についても「さらなる協力関係を築く用意がある」と関係深化を申し出ている。

　トルコはイランから天然資源を輸入しておりその安定確保が宗派対立よりも優先課題となっているのである。イランとの接近はサウジと距離を置くこととなる。

　パキスタンにしろトルコにしろ長年スンニ派国家としてサウジアラビアと共にスンニ派を代表してきたが、アメリカとの関係が改善しつつあるイランの台頭によって

地政学が大きく変わりつつある。アメリカとイランの宥和とサウジアラビアの影響力の低下はコインの裏表であり、その衝撃がじわじわと現実のものとなりつつあるようだ。

4月13日

再び歴史が作られるのかー強いアメリカを象徴するクリントン

ヒラリー・クリントンがいよいよ次期大統領選挙レースに名乗りを挙げた。2 分ほどのビデオで参戦を表明したが、オバマの大統領選挙レースでもそうだったようにいかに若者を掴むかが大きく勝敗を左右する。そのために、多くの若者が利用するソーシャルメディアを使ったのだろうが、そこには勝つための明確な戦略がすでに立てられている。

民主党ではヒラリーへの支持が６６％と圧倒的であり他に有力な候補もいないことからおそらく大統領候補は勝ち取るに違いない。一方で共和党は強力な候補がおらず支持が割れている。ジェブ・ブッシュ、テッド・クルーズ、ランド・ポール、マルコ・ルビーオなどが名乗りを上げているが、最大の支持を集めているブッシュでも２１％の支持にとどまっている。クリントンに匹敵するような存在感のある候補者はいないのが実情である。

米紙ワシントンポストの最近の世論調査によれば、ヒラリーは強い指導力を持つと答えた国民は６４％に上る。もし今投票するならばという問いには５４％がクリントン、４０％がブッシュという結果となった。 また、クイニピアック大学の世論調査によれば、 アイオワ、コロラド、バージニアといった激戦州では、アイオワ、コロラド州ではクリントンと共和党候補は拮抗しており、バージニア州ではクリントンが優勢である。

選挙が始まる前から勝利が確実視されているクリントンだが、キャンペーン期間は長い。なにが起こるかわからない。だがもしクリントンが大統領に当選すれば、アメリカ史上では初めての女性大統領となる。ファーストレディ、国務長官と経験と貫禄では他に追従を許さないクリントンにはぜひ新たな歴史を作ってほしい。